

～四種混合は、ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオの予防接種です～

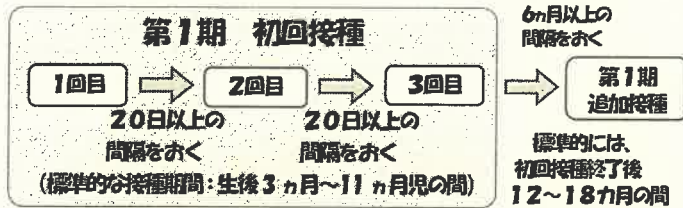
【対象者】 生後3ヵ月から90ヵ月に至るまで（7歳6ヵ月となる日の前日まで）の間にある児

※沖縄市に住民登録をしている方

※ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオのいずれかにかかった方も、四種混合ワクチンを接種することができます。

【接種回数と間隔】

第1期4回（初回接種：3回、追加接種：1回）



※標準的な接種期間・間隔とは、病気にかかりやすい年齢や免疫のつけやすい間隔を考慮して定められたものです。標準的な接種期間・間隔を過ぎてても、対象者であれば無料で接種が受けられます。

第1期初回の標準的な間隔は、「20日～56日」です！



◆DPT 予防接種を完了していない場合、残り回数を四種混合（DPT-IPV）または三種混合（DPT）ワクチンに切り替えて接種することができます。 ※平成30年1月29日より三種混合（DPT）ワクチンの使用が再開されました。

★ジフテリア（D）

ジフテリア菌の飛沫感染で起こる病気です。主にのどに感染しますが、鼻にも感染します。症状は、高熱、のどの痛み、犬が吠えるようなせき、おう吐などで、のどに偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。

また、この菌は、ジフテリア毒素を大量に出して神経や心臓の筋肉を侵すため、発病後に心筋炎や神経麻痺を起こし、突然心筋障害で死亡することもあります。

現在、国内ではワクチンの普及によりジフテリアの罹患リスクを95%程度減らすことができると報告されており、ほとんど患者はいませんが、ワクチンをやめざるを得なかった旧ソ連などでは大流行が起こり、多数の犠牲者が出ました。

★百日せき（P）

百日せき菌の飛沫感染で起こる病気です。普通のかぜのような症状で始まりますが、続いてせきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的に激しくせき込むようになります。せきの後、急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。

乳幼児では、激しいせきで息を吸う間がないため、呼吸ができず、くちびるが青くなったり（チアノーゼ）、けいれんが起きたり、肺炎や脳症等の重い合併症で死亡することもあります。最近、思春期・成人の百日せき例が増加傾向にあり、乳幼児への感染源となる危険性もあります。

★破傷風（T）

主に、傷口から侵入した破傷風菌が体内で毒素を産生し、全身の神経がおかされ筋肉麻痺やけいれんを起こす病気です。最初は、顔の筋肉を動かさずらく引きつった顔になるなどの症状から始まり、徐々に口が開けにくくなり、その後数日以内に全身の筋肉がいつせいに縮んでけいれんが起こり、息ができなくなったりし、死亡する事もあります。

破傷風菌は土壌中に存在し、常に感染の危険性があります。深い傷だけではなく、屋外での土遊び等でできる小さな傷でも起こります。また、この菌は自然感染によって免疫を獲得することはなく、予防接種以外に免疫をつける方法はありませぬ。ワクチンの接種によって100%近い方が十分な抗体を獲得すると報告されています。

★ポリオ（IPV）

ポリオは《小児まひ》と呼ばれ、主に手足にまひを起こす病気です。感染した人の便中に排泄されたウイルスが再び人の口から入りのど又は腸にて増殖し、便を介して人から人へ感染します。感染してもほとんどの人は無症状ですが、重症になると、ポリオウイルスが脊髄に入り込み、まひが一生涯残ることがあり、まひ症状が進行し呼吸困難により死亡することもあります。残念ながら、まひ症状の特効薬等の確実な治療法はなく、残された機能を最大限に活用するためのリハビリテーションが行われます。

現在、日本国内では野生株のポリオ患者の発生はゼロとなっていますが、ナイジェリア、パキスタン、アフガニスタンなどでは現在もポリオの流行が見られ、感染はどの国にも広がる可能性があります。

●四種混合ワクチンの副反応

注射部位の赤み・はれ・しこりなどの局所反応が多く、注射部位以外の副反応としては、発熱、気分変化、不機嫌、下痢、鼻水、せき、発疹、食欲減退、のどの赤み、嘔吐などが報告されています。

また、重大な副反応としては極めてまれにショック、アナフィラキシー（じんましん・呼吸困難・血管浮腫など）、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんなどが報告されています。

定期の予防接種後に起きた健康被害が、予防接種によるものと国で認定された場合には、予防接種法に基づく補償（医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料）を受けることができます。

沖縄市役所 こども相談・健康課 予防係 TEL 939-1212(内線 2232・2233)

※この説明書の情報は平成31年4月現在のものです。